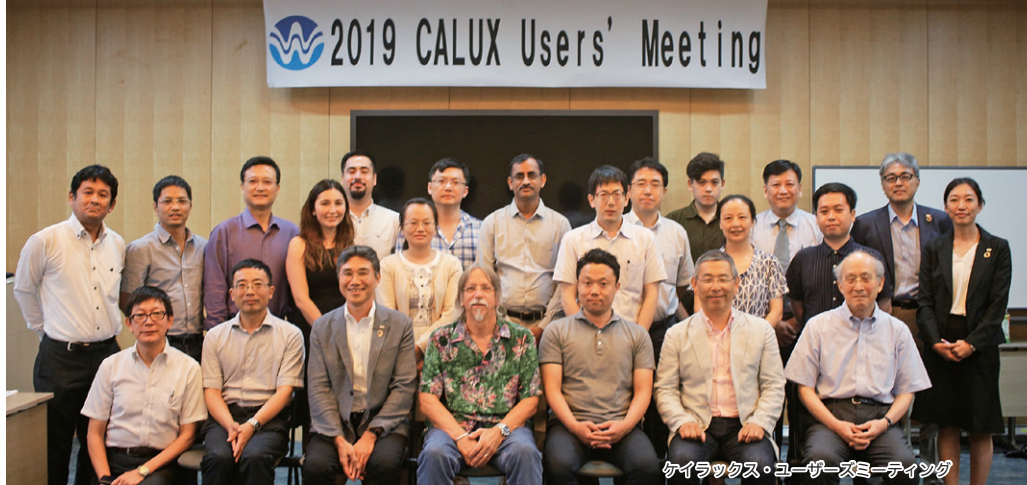




ケイラックス・ユーザーズミーティング

本社:〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店:〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)



表彰・学会活動

将来世代応援企業賞を受賞

2019.6.6

日本創生のための将来世代応援知事同盟より、将来世代応援企業賞を頂きました。

キャリア継続のための取り組みをはじめ、次世代育成支援の他、地域との連携による取り組みが評価されました。

キャリア継続のための取り組み



ビデオ通話会議やインターネット会議の導入により、本社、海外拠点、自宅など時間と場所の壁を越えた会議やコミュニケーションを展開しています。

在宅勤務や時差出勤制度等を実現し、育児や介護などそれぞれの働き方に応じた、柔軟で選択肢の多い環境づくりを進めています。

次世代育成支援



化学分析に特化した厚生労働省認定職業訓練事業所「日吉塾」にて若手社員や海外研修生の受入れを実施。

修了生の中には海外拠点である日吉インディアでコアメンバーとしても活躍しています。

地域との連携



地域の子ども会と連携し、環境研修会を長年に渡り実施しています。

その他、小学校へ社員が出向き環境教育を実施、子どもたちが環境をテーマにした絵をごみ収集車へペイントするなど、次世代の環境意識向上に取り組んでいます。

2019年度 Limnology Excellent Paper Awardを受賞

2019.9.30

「塩化ベンザルコニウムの環境DNA保存効果について」の※研究論文が、日本陸水学会のLimnology Excellent Paper Awardを受賞しました。

受賞理由としては、本論文が、水生生物の種類や量の推定を可能とする環境DNA技術について、採水試料の保存方法を検討し、塩化ベンザルコニウム溶液を添加することで、常温での環境DNA分解防止を示した大変画期的で重要性の高い研究であることや、フィールドでの処理の簡便化を通じて、より広い応用性を目指す点で優れており、環境DNAを利用した調査研究の普及や実践において少なくない役割を担っていると考えられたことが挙げられます。今後も活用が期待され、専門家の間でもその有効性が評価されています。

※ 「A simple method for preserving environmental DNA in water samples at ambient temperature by addition of cationic surfactant (2017)Yamanaka H, Minamoto T, Matsuura J, Sakurai S, Tsuji S, Motozawa H, Hongo M, Sogo Y, Kakimi N, Teramura I, Sugita M, Baba M, Kondo A Limnology, 18 (2), 233-241」



Limnology Excellent Paper Award

日本陸水学会の英文誌である「Limnology」は、2000年より発行。掲載する論文はいずれも複数のレフェリーによる査読を経ており、日本を代表する陸水学の総合雑誌として海外でも高い評価を受けています。2013年度からは論文賞が設けられ、過去2年の間にLimnologyで発表された論文の中から、編集委員が選考した特に優れた論文の著者を表彰するものです。

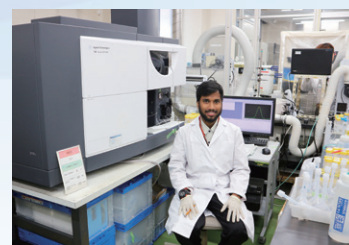
連載 日吉インディアNOW

インド現地法人の日吉インディアより技術研修生来日

2019.10.23~2020.2.29

日吉インディアは、インド・チェンナイで環境分析と排水処理施設の維持管理事業を展開しています。さらなる事業拡大を目指すには人材育成が不可欠であることから、アジア生産性機構（APO）の人材育成支援事業を介し、現地スタッフが日本の日吉本社で現在、約4か月間の技術研修を受けています。

今年度は新たな分析装置（誘導結合プラズマ発光分光分析装置）の導入を予定しており、来年度には現在の一般分析項目に加えて金属分析のISO17025認定を取得すべく、現在準備を行っています。



インターンシップ



インドから2名のインターン生を迎えました 2019.5.21

国際貢献や海外事業展開に向けた人材育成・ネットワークづくりを目的とした当社のインドインターンシップも今年で14年目。本年は54名の応募から選ばれた2名が、5月から7月にかけての約2か月間、当社で食品・水質分析と排水処理に関して研修を行いました。先進技術に対して興味深く、熱心に学んでいました。

また、京都大学で開催された環境技術研究等情報交換会では、2人の研修生がインドの危機的な水状況やスパイス摂食習慣について発表するなど、様々な研修を経験してもらいました。充実した研修を経て無事に帰国しました。

(その他海外インターンシップ) ■ 発展途上国よりJICA研修生 ■ 大阪府立大学さくらサイエンス研修生

国内の大学・大学院インターン生受入れ

4～10月に、10名のインターン生を受入れました。研修内容は、各々が学びたい総務企画にて研修を実施しました。今回は、分析・排水処理・総務企画にて研修を実施。



今回のインターンで排水処理について学びました。

家庭用浄化槽を点検する際、汚泥やスカムに発生する巻貝の防除法が確立されていないことを知りました。自分は外来の巻貝について研究をしており、具体的な問題に遭遇することができ、とても充実した研修でした。

(その他国内インターンシップ) ■ 滋賀大学 ■ 龍谷大学 ■ 長浜バイオ大学校 ■ 八幡工業高校 ■ 八幡東中学校 ■ 八幡中学校



海外事業

JICA草の根技術協力事業inミャンマー 2019.5.26～2019.5.31

当社の社員が「ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市下水処理場管理・保全能力向上プロジェクト」の一員としてヤンゴン市へ渡航しました。下水処理場の維持管理チームは、前回の渡航時に導入した水質モニタリング装置から得られるデータの活用に関する講義や、実際の原水・曝気水を使って処理条件を変えた際の水質変化を確認できる簡易実験の指導などを行いました。

一方、水質チームは前回に引き続き、分析方法の説明をはじめ、現状の問題に対する改善策の提案、作業フローの作成指導を行いました。さらに、現地ではJISに基づいて分析を進める日系企業と同一試料によって導いた結果を比較する機会もあり、下水処理場スタッフにとっても有意義な経験を得る機会となりました。



2019年度第1回中小企業・SDGsビジネス支援事業 案件採択 2019.4.16公示

国際協力機構（JICA）にて、「ベトナムでの簡易分析法によるダイオキシン類の環境モニタリング促進に向けた案件化調査」が採択されました。ベトナム国での簡易測定法の公定法化を目指し、ダイオキシン類に関する分析方法やモニタリングの実施体制、公的・民間分析機関への市場性、法令・規制の調査を行います。

学会発表・講演



日吉主催 ケイラックス・ユーザーズミーティングを開催 2019.8.25～2019.8.30

ダイオキシン国際会議（39th International Symposium on Halogenated Organic Pollutants）が12年ぶりに日本で開催されました。

当社では、関係者、専門家が集うこの会議に先駆け、8月25日にキャンパスプラザ京都でケイラックス・ユーザーズミーティングを開催しました。自治医科大学名誉教授の香山博士にファシリテーターを務めていただき、カリフォルニア大学名誉教授のデニソン博士による「米国におけるAhレセプター及びエストロゲンレセプターバイオアッセイの最近の動向」、また国立環境研究所の鈴木博士による「ケーススタディ：in vitroバイオアッセイ及び化学アッセイを用いた臭素化ダイオキシンの排出調査」の講演をいただきました。

当社からはダイオキシン系の松田が「バイオアッセイの基本と応用—ケイラックスアッセイ—」を発表し、今日のケイラックスに至る近年の取り組みについて紹介を行いました。世界8か国からケイラックスのユーザーや研究者ら25名が集い活発な情報交換が行われました。



- 用紙：琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー
適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ or ノンVOCインキ）
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量：245kg/3,000枚